



ファッション評論家 **ドン小西**

飲む場所、飲む酒、飲む相手……  
酒は「ファッション」であり、  
文化「でもある」

ボクが酒を飲み始めたのは、20歳前後の頃でした。最初は美味しいとは思わなかったけど、とにかく大人の味々を感じたくてね。ハタチの頃といえば、とにかく大人に憧れる背伸びをしたい年頃で、ファッションも同じだけど、そのツールの一つがお酒だったんだ。

煙草の煙をくゆらせながら、洋酒をロックで飲む——。当時描いていた大人のイメージといえば、映画で見たウイスキーとかブランデーをグラスに注いで氷をカランカラと音をたてて飲む。それがカッコいいと思っていたし、渋い大人だった。そんな酒のひとつの大人の「文化」を感じていたんだ。

でも実際は、ずいぶん違って、ニッカの角瓶を自分で買ってきて、一人で恐々と飲んだことを覚えているよ。ウイスキーをキヤップに注いでストレートでくいつとね。ストレートだったから4、5杯飲んだらすぐにベロベロになったわけ。味？ そんなものはわからない。そりゃそうだ。この年頃は酒なんかより、ミルクコーヒやジュース、サイダーのほうが美味しく感じる年齢だからね。

でも、大人になるための儀式だと思っただけで、大人になるための儀式だと思っただけで、大人になるための儀式だと思っただけで、大人になるための儀式だと思っただけで……

今思えば、無理せず水割りにすればよかったものを、冗談でもなんでもなく、水で割って飲むことすら知らなかった。頭の中は、常に「オンザロック」だったから。

味はわからないけど、辛抱しながら飲

み続けると、やがて酒を飲むことが板についてくるのか、美味しく感じるようになってくる。酒って不思議なもので、覚えなきゃ、飲まないまま過ごしてしまえるけど、一旦、酒の存在を知ると、飲んでる姿がカッコいいと思えてくるし、飲んでると元気が出てくるような気にもなる。大した稼ぎもない若僧のくせにバーにせつせとカネを落としていた。

ところが、30歳で独立したあたりから酒を飲む習慣が変わってきた。

20代は結局、仲間とワイワイ騒ぎながら酒を飲むことが好きだったんだけど、30代を越えると、とたんに「飲みに行こうぜ」というフレーズが無くなった。ワインやシャンパンが世に認知されるようになった時代も重なって、優先順位が酒よりも食事が上回ったんだ。つまり、酒は食事をする席で飲むという嗜好に変わったんだ。

今でもギヤァギヤァ騒ぎながら飲む若者たちがいるけど、ボクは30歳以降、そういう飲み方はしなくなったね。

だから、酒の飲み方も時代や年齢で変わる「文化」なんだ。真つ赤な顔してストレス発散しながら飲むことはもうできないし、むしろカッコ悪いと思うようになった。

独立してファッションの最前線にいるようになったことも影響している。だってこのギョーカイ、周りには常にカッコいい人ばかりがいるんだぜ。必然的にカッコ悪い飲み方なんてしないようになる。

このギョーカイで「遊び」と言うと、まず食事なんだよね。食事しながら酒も楽しむ。ともに食事をするのがコミュニケーションであり、情報交換であり、さらに相談をしあつたりする場でもある。また、ときには女性を口説く機会ということもある。だから店選びも常にカッコいい空間を選ぶようになるのさ。居酒屋という形態には自然と足が遠のき、オシャレな店しか行かなくなるね。

ファッション業界は時代の最先端でもあるから、酒を飲む場所も言ってみれば、「文化の発信元」ということになるんだ。皆そいう意識でいるからこそ、野暮な店には行かない。

酒を飲むことも一つのファッション。飲む店、飲む酒、飲む相手、飲み方や会話までセンスが問われるんだ。

## 近頃、巷間に流行る ビタミンC豊富な「ドンスワワー」

さて、飲みに行つたとする。乾杯はどうする？ ビール？ ボクはシャンパンだね。だつて、「とりあえずビール」つてカッコ悪いと思わないかい。このギョーカイでは、いまや「とりあえずビール」をやっている人はほほいしないよ。

そんなボクも60代後半。おのずと無駄な時間と体力は使わないように考えるようになった。酒を飲んでると、時間が経つ

のが早いだろ。しかも体力勝負でもある。

そう思うと余計ビールでは楽しめないんだ。だからアペタイザーとともに、「とりあえずシャンパン」といふ。その後はその店のメニューに合わせてドリンクも変えていく。

ところが、さらにドクターストップで糖質制限を強いられている状況なので、仕方なく血糖値の上がらない麦焼酎を炭酸で割つて飲むようにしている。ホントは焼酎も嫌いなんだよね。だからどうするか。麦焼酎にレモン果汁をこれでもかというほどに搾り入れる。1杯にレモン1個。嫌いだからレモンの味を強めたくなる。

いまではボクの周辺ではこれが話題になって、「ドンスワワー」なんて呼ばれている(笑)。5杯飲めばレモン5個。ビタミンCがたっぷり採れて肌がつやつやになるよ。

## 行きつけのバーに 愛犬を忘れてきたことも

失敗談？ 若いときはあつたね。ある晩、飲酒後、当時つき合っていた女性のマンションまで行つたんだ。その娘の部屋は2階なんだけど、酔いに任せて樋を伝い上つて窓から夜這い。気が付くと手が血だらけになつてた。若気の至りだね。独立してからはそんなアホなことはしていないよ。

失敗というほどではないけど、最近酒を飲むと物を忘れるようになってきてさ。

先日も行きつけのバーで忘れ物をしたんだ。

そのバーにはよく愛犬のラブラドゥードルの「アリー」を連れていくんだけど、ケータイを忘れたんだ。じつはそれだけでなく、愛犬アリーも忘れてきちゃった。家について「いけねつ」と思い出し、慌てて店に舞い戻ると、アリーは主人の姿が見えず、ちよつと焦つていたようだった。

そんなヘマもするけど、それでも「遊び」「飲食」、そして「文化」であるという考えは変わらない。だから、無駄な飲み方はしない。それがボクの流儀なんだ。

酒を飲むことは尊い時間だと思つているし、ダラダラと飲むことは嫌い。

だから、自宅で飲むときもきちんと飲む。一人の時でもクリスタルのグラスにデキャンタで注ぐ。翌朝目覚めたときの光景も考えつつ飲む。写メに耐えられるようなビジュアルを作つてから寝るようにしているんだ。居酒屋の宴の後のような光景は最悪。そう思つて飲むから酒に飲まれることもないし、二日酔いもない。

銀座の高級クラブも行くことがあるけど、それは付き合ひでだけ。だつて、美人のホステスと飲んでも楽しいと

思わない。なぜか？ だつてファッション業界は美男女ばかりじゃない。普段から美女を見ているからさ。

何度も言うけど、とにかく酒は「文化」としてカッコよく飲みたい。ダサイ洋服にカネを使わないようにするのと同じで、酒にムダ金は使わない。だからとびつきの美女としか酒も飲まない。情性で飲みに行くとか、寂しさを紛らわすためにクラブに行くなんてダサイことは絶対しないんだ。

